

空間構成の差異からみる子どもの遊び・移動自由性の比較

— 中国都市団地と日本民家型学童保育の事例分析 —

大阪公立大学大学院 生活科学研究科 生活科学専攻 李 阜陽

指導教員：小伊藤 亜希子教授

I. 研究背景と目的

近年、子どもの放課後生活を支える空間は、都市の再開発や住宅形態の変化により多様化している。

中国では高密度な都市団地の整備が進み、住宅の「開放性」と「安全性」の両立が課題となっている。一方、日本では、少子化と共働き世帯の増加を背景に、民家やアパートを活用した「民家型学童保育」が広がり、家庭的な親密性と活動多様性を両立する空間が求められている。

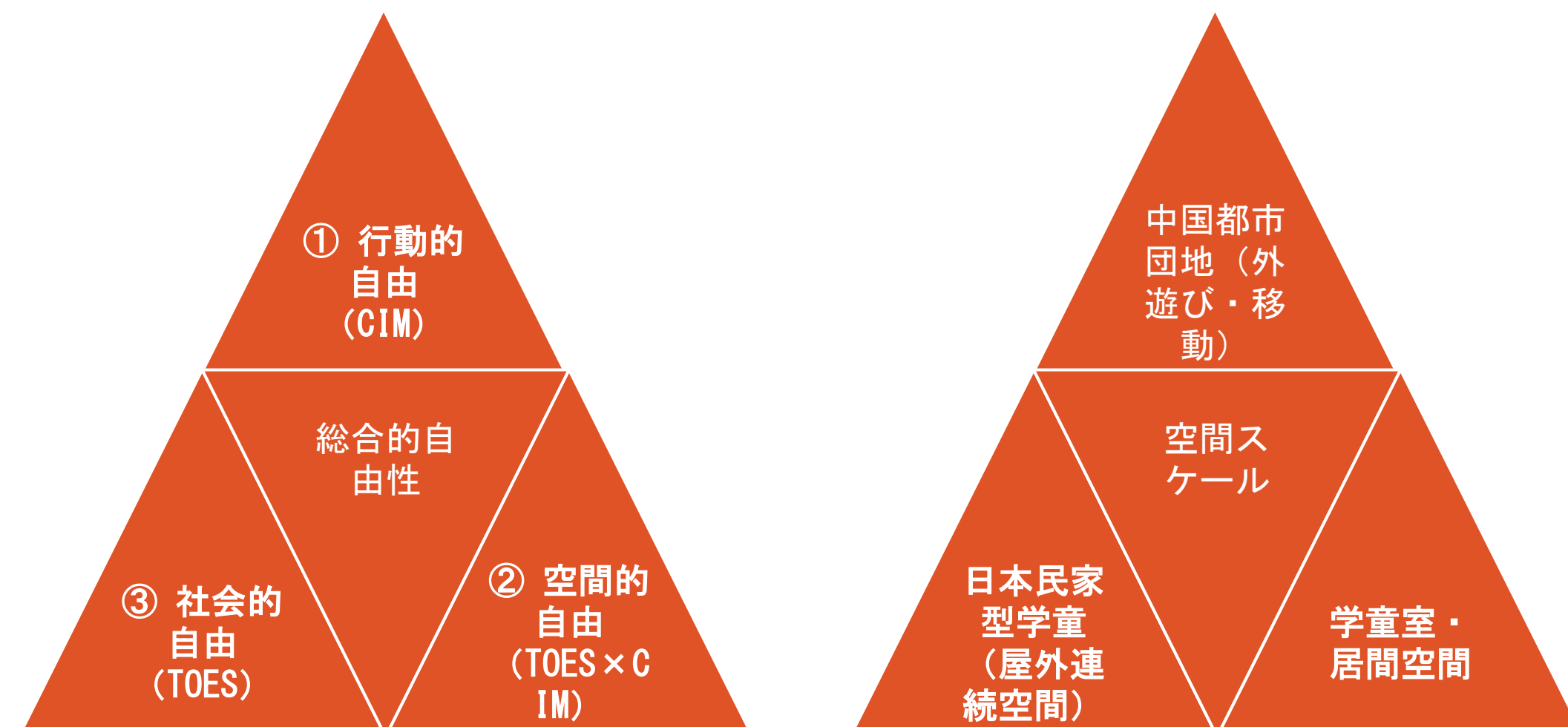
こうした都市スケールから家庭スケールに至る異なる空間環境の中で、子どもがどのように「自発的に遊び・移動する自由」を獲得しているのかを比較・検討することは、今後の放課後空間設計の方向性を考える上で重要である。

本研究の目的は、子どもの「遊び・移動の自由」を支える空間構成を、室内外双方の環境から明らかにすることである。

中国の都市団地を対象とした調査では、外遊び環境や親の付き添い状況が移動自由性（CIM）に及ぼす影響を分析し、日本の民家型学童保育の調査では、室内空間の使われ方と屋外遊び（庭・路地・公園）へのアクセス性を含めて、遊びの自由性を評価した。

II. 研究枠組み

本研究では、子どもの放課後における「遊び・移動の自由性」を、CIM (Children's Independent Mobility) の枠組みを基礎に、日本の民家型学童保育における TOES (Test of Environmental Supportiveness) の観点を統合して分析を行う。



III. 結果（比較）

中国都市団地におけるCIM分析調査概要：ハルビン市6小学校・児童1238人アンケート

指標構成：安全性・親同行・行動範囲・時間

制約

団地タイプ別CIMスコア比較図結果

	指標	2年生			5年生		
		開放式	閉鎖式	開放ブロック式	開放式	閉鎖式	開放ブロック式
加重平均得点	指標①行動制限の少なさ	2.5	3.9	4	2.5	4	4.3
	指標②思い思いに遊べる	0.5	1.2	1.1	1.6	2.5	3
	指標③親の付き添い状況	2	2.4	2.5	2	2.6	2.8
総合得点		5	7.5	7.6	6.1	9.1	10.1

考察：

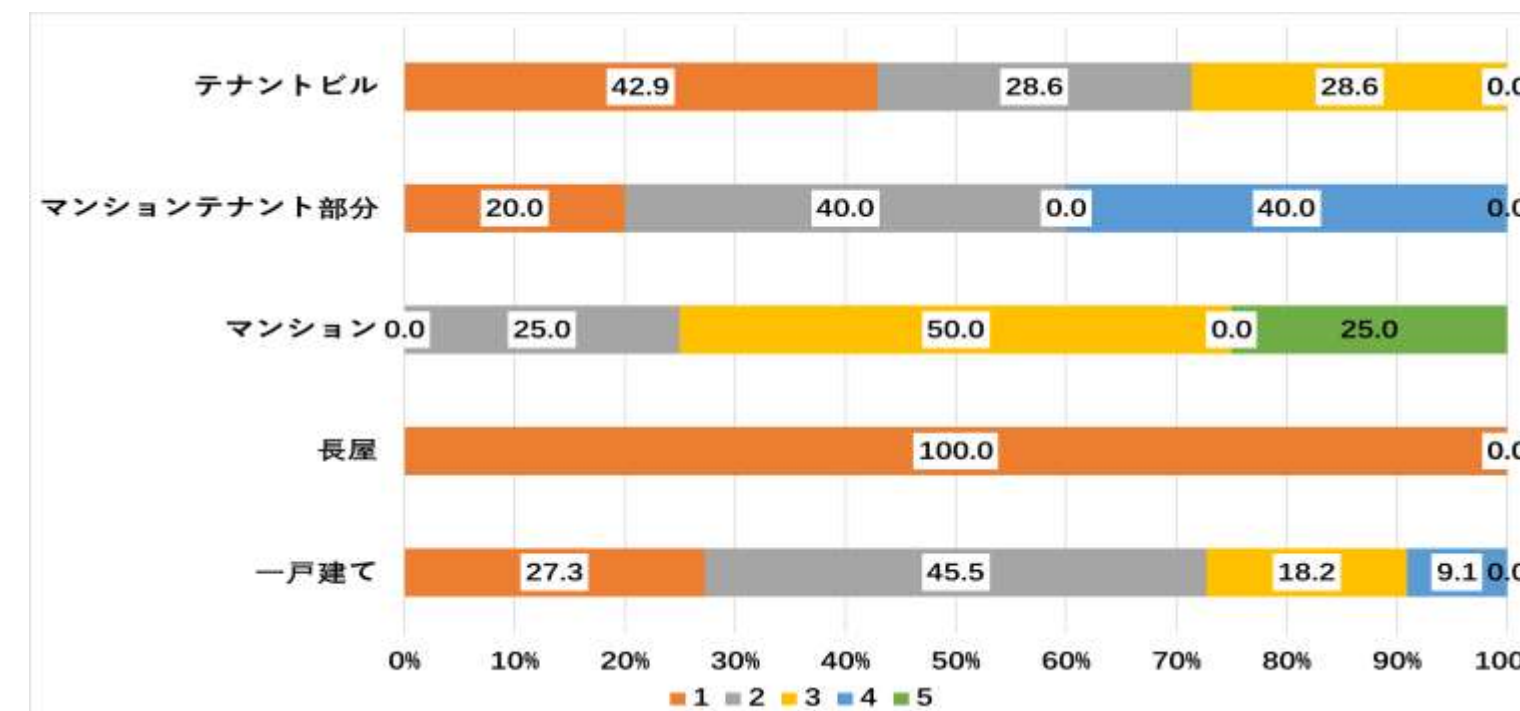
開放式団地 → 高自由／低安全

閉鎖ブロック開放式 → 安全と自由の両立

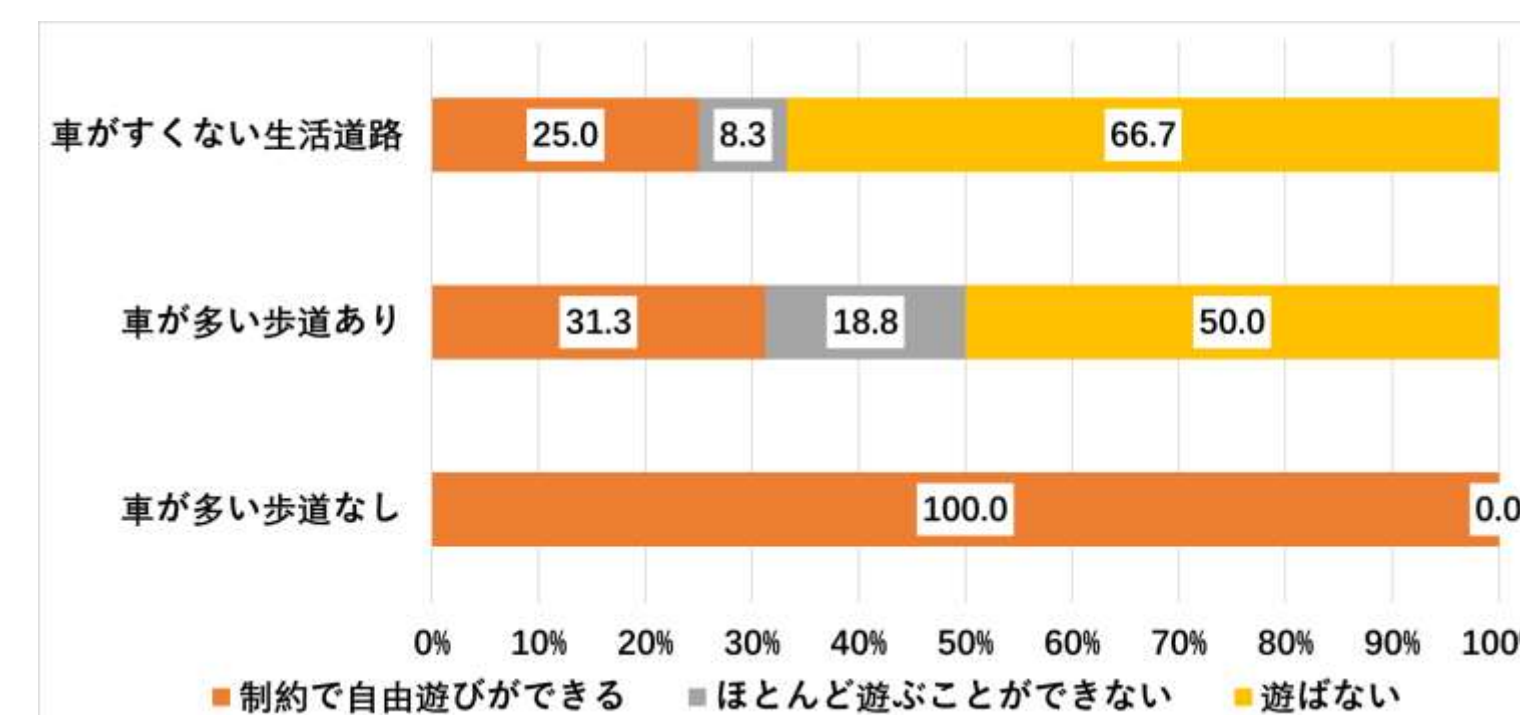
日本民家型学童保育における室内外遊び自由性

対象：大阪市内72施設（うち11事例ヒアリング）

指標：道路関係と自由性・人的関与室内レイアウト比較建物タイプとTOES得点



民家などを使った学童保育外部空間と遊び自由性



考察 道路関係・建物タイプが自由性を左右

IV. 総合的考察

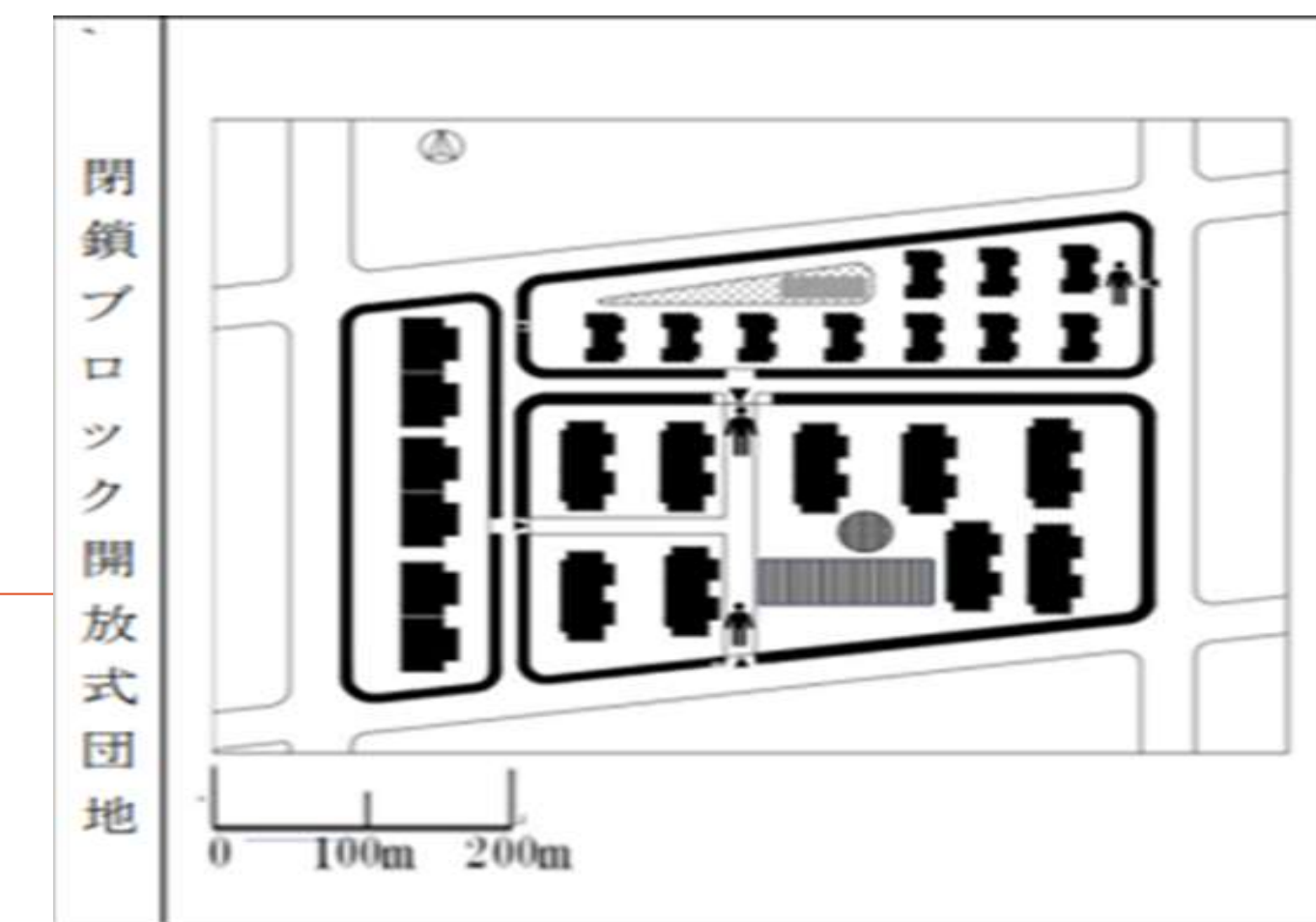
日中の比較から見える示唆

日本の民家型学童保育では、小規模・地域密着的空間における「道路環境との関係性」が自由性を左右する。

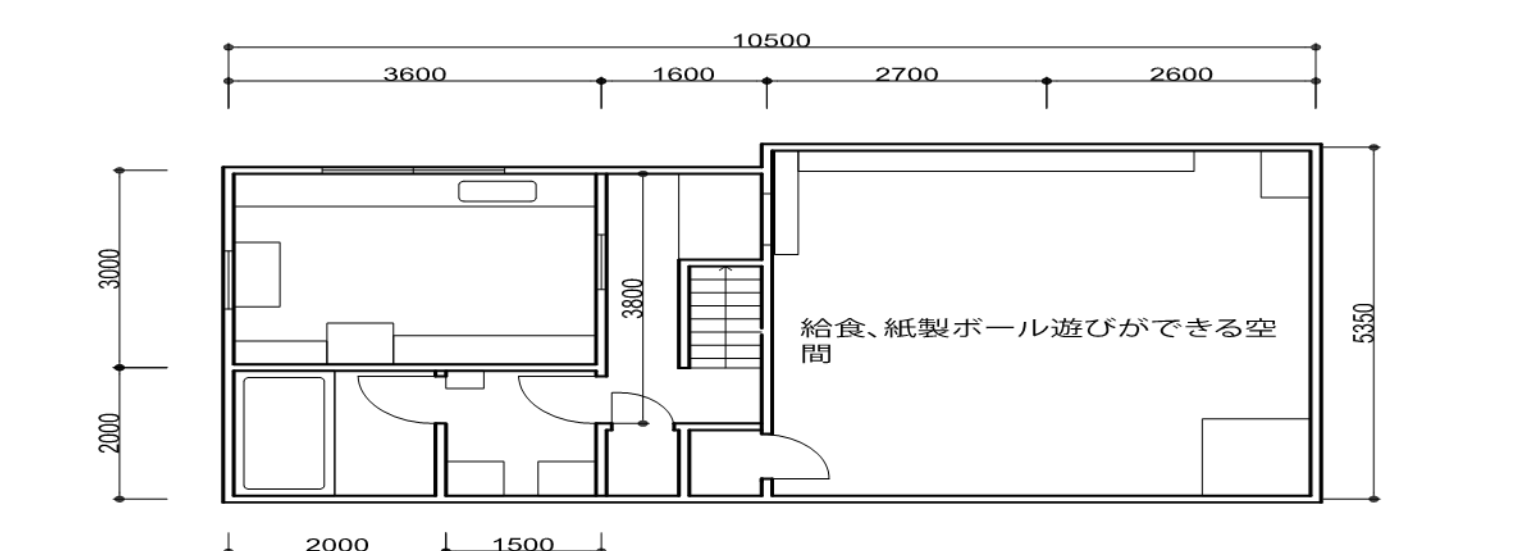
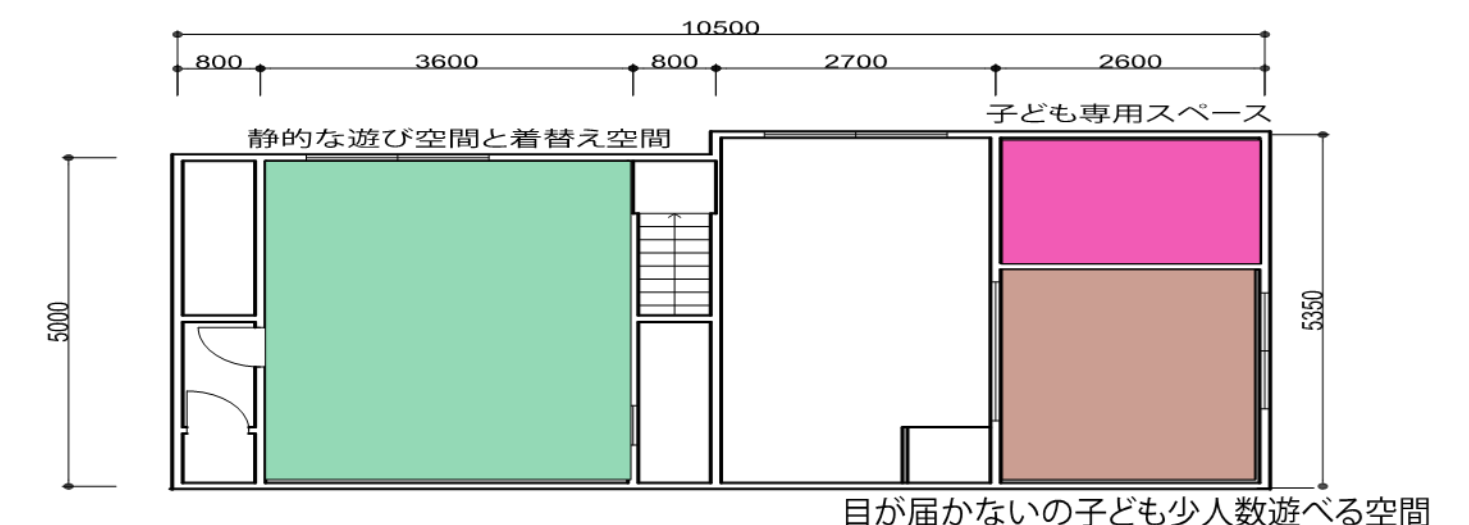
中国の団地型環境では、空間構成のセキュリティレベルが子どもの自由性に大きく影響している。

共通して、「安全性と開放性のバランス」が子どもの移動・遊び自由性を規定している。

異年齢交流や地域コミュニティとの連携を促進する設計的工夫が、両国の共通課題として重要である。



移動自由自由性が高い事例 レイアウト中国



移動自由自由性が高い事例 レイアウト日本